

適期移植と水管理の徹底で初期生育を確保！

1 育苗後半(緑化終了後)の温度管理

- 緑化期から硬化初めは、ヤケ苗等の育苗障害が起きやすい時期です。
- 日照がある日は、被覆資材の内部やハウス内の温度が急激に上がるので、被覆資材の除去やハウスの換気を十分に行いましょう。

2 べんとう肥の施用

- 施用時期は移植4～5日前が基本です。べんとう肥には苗の老化防止と移植後の活着を早める効果があります。
- 窒素成分で1箱当たり1～2gとなるよう、肥料を育苗箱の上から散布します。散布後は十分散水して肥料ヤケを防ぎましょう。
- プール育苗の場合は落水後に灌注するか、育苗箱の上まで水を張って施用しましょう。後者の場合は施用後2日間程度落水しないようにしましょう。
- 軟弱・徒長苗の場合には、障害発生の可能性があるため追肥を控えましょう。

3 水不足に備えた対応

- 用水路や畦畔に亀裂などの破損がある場合は、早めに修復しましょう。
- 畦塗りは丁寧に行い、畦畔の亀裂やねずみ穴等からの漏水防止を図りましょう。
- ポンプを利用した用水の反復利用など節水管理に努め、公平で効率的な用水利用を行いましょう。
- 秋代かきを実施していない天水田では、4月中にまとまった降雨があるときに代かきを行いましょう。

4 耕うん・代かきの留意点

- 根域を広げ、十分に養分を吸収し、後期栄養を維持するために、作土深は15cmを目標に耕うんしましょう。
- (1) **耕うん作業のポイント**
 - ・耕うん前に作土深を確認しましょう。
 - ・一度に深くして下層の不良土壌が作土層に多く混入すると、生育不良を起こす可能性があるため、作土深については毎年1～2cmずつ深くしていき、作土深15cmを目指しましょう。
- (2) **代かき作業のポイント**
 - ・浅水代かきにより、用水の使用量の削減に努めましょう。
 - ・保水性の確保および除草剤の効果を安定させるために、代かきは丁寧に行いましょう。
 - ・代かき開始時のめやすは、土が8割、水が2割見える程度の際に行いましょう。
 - ・代かきまではゆっくり水をため、しっかり土を湿らせておくと作業がしやすくなります。
 - ・代かき時に水が足りないようなら、少しずつ入水しながら代かきを行いましょう。

5 施肥設計

- 基肥窒素が不足すると穂数不足となり、多すぎると過剰分げつや籾数過剰となり登熟が悪化し、収量・品質が低下します。
- 基肥窒素は表のめやすを参考に地力や品種に応じて過不足なく施用しましょう。
- 全量基肥肥料は利用率が高く、気象や稲の生育が予想できない状態で穂肥分までを施用することになるため、分施の基肥+穂肥の合計窒素量から1～2割減肥しましょう。

表 品種別施肥量のめやす（分施肥系）

(成分kg/10a)

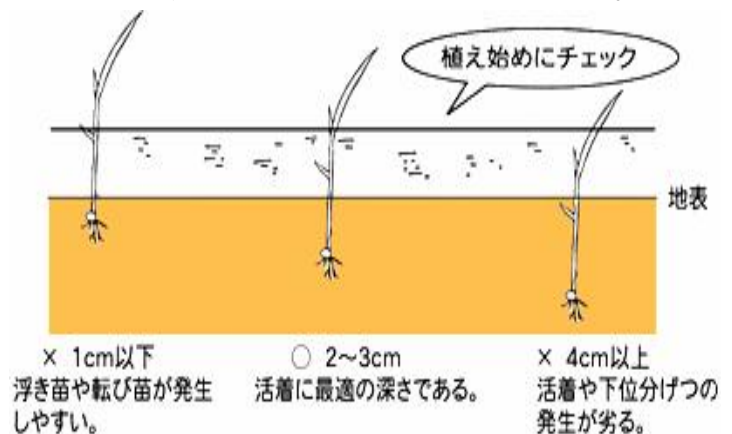
| | 基 肥 | | | 穂 肥 | |
|-----------|-----|----|---|-----|-----|
| | N | P | K | N | K |
| コシヒカリ 平坦地 | 2～3 | 7 | 8 | 1～3 | 1～3 |
| | 2～3 | 10 | 6 | 1～3 | 1～3 |
| こしいぶき | 3 | 7 | 6 | 2 | 2 |
| つきあかり | 6 | 6 | 6 | 3.5 | 3.5 |
| 新之助 | 3 | 3 | 3 | 1～3 | 1～3 |

5 適期移植と移植時の留意点

- 平坦地では「つきあかり」は5月上旬、「五百万石」や「こしいぶき」などは5月10日頃までに移植しましょう。「コシヒカリ」は最も高温となる時期の出穂を避けるため、5月10日以降に移植しましょう。
- 水不足が心配される場合は最初に移植しましょう。
- 中山間地では、移植が5月末以降になると穂数が十分確保ができず、収量が低下するため、早めに移植しましょう。また、疎植を避け、坪当たり60株以上の栽植密度で移植しましょう。
- 移植作業の良否は、活着・初期生育に影響を及ぼすので、以下の点に留意してください。

【移植作業のポイント】

- ① 植込苗数は1株当たり3～4本とし、過繁茂や細莖化を防止しましょう。
- ② 適正な植え付け深さ（2～3cm）であるか確認しましょう。
- ③ 田植機の移植速度が高速になるほど浮き苗や転び苗等が発生しやすくなるため、適正な速度で移植作業を実施しましょう。



6 移植後の水管理

- 活着するまでは3～4cmのやや深水とし、保温的水管理で低温や強風による植傷みを回避しましょう。
- 活着後は2～3cmの浅水管理で、水温の上昇を図り、分けつの早期発生を促しましょう。
- ワキの発生が多い（水田を足で踏み込むと盛んに気泡が発生する）場合は、夜間落水（夜干し）を行い、根の健全化を図りましょう。

7 除草剤使用の留意点

- 代かきは、できるだけ移植時期に近づけて行い、田面を均平に仕上げましょう。
- 代かきから移植までの期間が長い場合は、移植前に初期剤を使用しましょう。ただし、散布は移植前7日までに終了しましょう。
- 除草効果を高めるため、散布の際は水深を確保し、処理後4～5日は湛水状態を維持しましょう。田面が乾くと除草効果が低下しますので、除草剤散布後、早期に田面が露出し、田面が乾燥・ひび割れする前に、ゆっくり静かに用水を入れましょう。
- 除草剤散布後7日間は止水し、落水やかけ流しは絶対に行わないでください。

お問い合わせ：上越東農林事務所 普及課 作物担当
TEL：025-592-3848 FAX：025-592-3591